

平成 21 年度 教員業務評価実施結果の概要

平成 23 年 2 月 3 日

茨城大学長 池田 幸雄

本学では、平成 21 年度の教員の活動について、その教育、研究、社会連携、校務の 4 業務を対象に、教員業務評価を行いました。教員業務評価は、教員の業務活動の改善が目的であり、教員活動を総合的に評価し、教員の自己評価と評価者評価をとおして業務の改善を図るものです。教員業務評価は、平成 18 年度に試行し、平成 19 年度から業務全般について評価を実施しました。この教員業務評価は、2 年毎に実施することとしています。

平成 21 年 10 月の教育研究評議会において、「教員評価制度の改善について」を審議了承し、第 2 回目の教員業務評価をより効果的に実施することとなりました。今回、本学の全学野で教員業務評価が精力的に実施されましたので、その実施結果の概要を公表します。

1. 評価の内容と方法

(1) 評価の枠組み

学野を単位とする。

(2) 評価分野

教育、研究、社会連携、校務の 4 分野について評価する。

(3) 評価方法

教員の自己評価書を基に、学野長が評価者評価を行う。教員が 4 分野について S, A, B, C の 4 段階評価を行った結果について、学野長（評価主体）は、総合的な観点から s、a、b、c の評価を行う。

(4) 教員への評価結果のフィードバック

評価結果は各教員へフィードバックされ、意見を聴取する。

(5) 評価結果の報告

学野長は、評価結果の概要を学長に報告する。

(6) 評価結果の処遇への反映

間接反映を基本とする。

2. 評価実施状況

各学野における教員の自己評価実施状況を以下に示す。

学野	人文	教育	理	工	農	計
対象者数	97	104	65	155	49	470
実施者数	94	104	65	146	47	456
実施率 (%)	97%	100%	100%	94%	96%	97%

3. 評価者評価の結果

評価 4 分野についての各学野長による評価結果を以下に示す。

評価分野	評価区分	人文	教育	理	工	農	計
教育	s	27	20	5	27	11	90
	a	62	82	49	115	33	341
	b	4	1	11	2	3	21
	c	0	1	0	1	1	3
	無回答	6	0	0	1	1	8
研究	s	28	24	10	34	18	114
	a	42	66	39	72	20	239
	b	20	14	13	28	8	83
	c	4	0	3	11	3	21
	無回答	5	0	0	1	0	6
社会連携	s	28	35	8	25	13	109
	a	38	62	38	79	24	241
	b	12	7	13	26	11	69
	c	4	0	3	16	1	24
	無回答	11	0	0	0	0	11
校務	s	38	37	3	20	19	117
	a	40	60	51	120	25	296
	b	8	5	11	6	5	35
	c	1	0	0	0	0	1
	無回答	6	0	0	0	0	6

4. 実施結果について

今回の教員業務評価には、全対象教員の 97% に相当する 456 名が参加し、自己評価と評価者評価が行われました。評価者評価の結果においても、教育分野で 93%、研究分野で 76%、社会連携分野で 77%、及び、校務分野で 91% の教員が s と a の高い評価がなされました。これらの高い割合は、平成 19 年度に実施された第 1 回教員業務評価の結果（s と a の割合：教育分野：92%、研究分野：71%、社会連携分野：78%、校務分野：90%）と同水準にあり、本学の教員は高い水準を維持して業務を遂行しているといえます。

今回の評価作業では、研究者情報管理システム及び教務情報システムから評価に必要なデータを収集し、自己評価及び評価者評価において定量的評価が、多くの学野で実施された。Web 上での自己評価入力シートが作成されるなど、評価作業の負担を軽減する工夫もなされた学野もあった。しかし、各評価分野の評価基準が明確でないために、教員の考えによって、自己評価区分が変わり、評価の統一性を欠くと指摘が評価者から寄せられている。

評価結果の処遇への間接反映は、すべての学野で、勤勉手当の成績優秀者及び昇給の推薦などの選考時に、総合的な判断を行う際に参照すべき資料として活用され、人事考課の適切性向上に寄与することができた。しかし、実施上の問題点も指摘されている。これらの課題解決を含め、今後、評価の質を高めるために、評価制度の一層の改善が必要である。